



AJU愛実

認定

編集：特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／紙風船)

定価：一部100円

第62号 会報

福祉の創造 人生の伴走者として/ 理事長 戸田 真二	P1
居宅介護事業所あみ	P2
大地の家（生活介護）	P3
紙風船（生活介護）	P4
「ヤドカリ合戦を見ながら」/ 島 しづ子	P5
寄付者名簿	P6



紙風船/ボーちゃん公演

福祉の創造 人生の伴走者として

理事長 戸田真二

1987年愛実の会の発足は、身体に重い障がいをもつ家族が集まり将来の夢を語り合うことから始まりました。最大のテーマは寄り添う中での「共に生きる」ことの実践です。今もなお、愛実の会の根幹がここに 있습니다。移り行く時代の中で福祉の制度も大きな飛躍を遂げ、様々なサービスが整備され、今や福祉はビジネスとして事業展開する時代へと突入しています。サービスを提供する人と受ける人が契約によって成立し、事業所は選ばれる存在となりました。そしていつしか「寄り添うこと」はこの業界の標語となっています。愛実の会では、すべての職員をアシスタントと呼び、利用者さんをメンバーと呼びます。私は「アシスタントの仕事はメンバーやご家族に寄り添うことです」と言い続けてきました。寄り添うとは、相手のそばに心を置くこと。物理的な距離ではなく、心の距離を縮める行為です。相手のペースを尊重し、隣で一緒に歩く人。まさに「伴走者」をイメージしています。

視覚障がい者のブラインドマラソンでは、1本のロープを頼りに伴走者(ガイドランナー)と2人一組でマラソンを走ります。ランナーは伴走者の声、気配、ロープの感触を頼りに闇の中を走ります。コース状況、カーブ、段差、ペース配分等を伝え、伴走者は単なるサポート役ではなく、命を預かる信頼のパートナーとして、ランナーの「目」となり、共にゴールを目指す存在だとされています。

★競技のルール

- ・伴走者は1人または複数人で交代が可能
- ・ゴールラインはランナーが必ず先に通過すること
- ・伴走者はランナーを引っ張ったり、押すことはNG

★伴走者の心得

- ・相手のペースに合わせる:伴走者が前に出すぎると失格、常に横か少し後ろを走ります。
- ・リズムを合わせる:足の運びや腕振りを自然に合わせることで、走者との一体感が生まれる。
- ・カーブの配慮:内側の伴走者は歩幅を小さくし、外側の走者が無理なく曲がれるよう調整。
- ・沈黙の中の安心感:必要以上に話さずとも、そばにいることが安心につながる場面がある。



体験談には「苦しさは半分、喜びは2倍」信頼・気づき・感動に満ち、多くの伴走者が、走ることに人とのつながりの深さを語っています。そこからは「人生を共有する時間」として、共に生きることの素晴らしさが伝わってきます。

寄り添う立ち位置や、心構え、そして得られる喜びは、私たちにも多くの共感するところがあります。普段の生活・普通の暮らしの中ではゴールが見えない分、日頃からの意識がとても重要です。このことからあえて「寄り添うことが仕事です」この意識づけがとても重要であると思っています。マラソンは毎日走れません。たまに休み、また走り出す。ゆっくり、ゆっくりと……。共に生きることには終わりがありません。されど「時」があります。嬉しい時、悲しい時、人生の伴走者としていつまでも歩み続けたいと願っています。

居宅介護事業所あみ 心の距離

～私はこの仕事が好き～

伊藤涼介

私はこの仕事が大好きです。そう思っているのは、これまで私と関わってくれた方々、そして今関わらせていただいているメンバーアシスタントの方が居て下さるからです。改めて今の環境が幸せで本当に感謝をしています。

私は愛実の会に来る前は、日本福祉大学で特別支援教育を学び、障がいの訪問介護を二年半経験しました。実際の介護現場は私にはぴったり合っていて、ものすごく大変な事もありましたが本当に毎日が充実していて介護が大好きになりました。後半の一年は管理業務も経験させていただき、大きな壁にぶつかり介護の中でも他の場所や高齢者介護も経験してみたいと思い、今は愛実の会と住宅型有料老人ホームで働いています。私がこの仕事を好きになったのは、ひとり一人とのかかわりをすごく近い距離でたくさんの時間を過ごすことができる場所にあると思っています。出会った時の挨拶、食事、お風呂、何気ないリラックスした時間をすごく近い距離で共にすることができる時間がすごく好きです。時にはお互いの気持ちが通じ合わないことやしんどい瞬間を目の当たりにすることもあります。どんな事も一緒に時間を過ごしながらかり越えていくそんな時間が私はすごく好きです。そして一緒に笑っていただける時間はたまらないほど幸せです。

私はこの仕事の素晴らしさを自分の周りの人をはじめ、たくさんの人に伝えていきたいと思っています。日本のあらゆる現場で人手不足と言われ、介護現場も厳しい状況だと私は思います。でも私はこの仕事が本当に好きで本当に素晴らしいと思うからこそ自信をもってたくさんの人にこれからも伝えていきたいと思っています。そして私は一緒に居て安心してもらえる介護士を目指して、目の前の人たちと向き合っていきます。「縁」を大切にこれからも愛実の会で少しでも力になれば嬉しいなと思います。

みんな集まれ！ 地域ふれあいボッチャ交流

毎月第1火曜11:00～12:00 10月から始まったボッチャ交流、地域の有志の方が4～5人集まり、紙風船のメンバーと一緒にボッチャをワイワイ楽しむ光景が見られます。混合で幾つかのチームを作って対戦します。ルールは簡単ですが、なかなか奥深く、大逆転ありのハラハラドキドキ感がたまりませんね。ボッチャはパラリンピックの正式種目でもあり、世界中で愛好されているスポーツです。誰でもが参加できることから、地域のお年寄りの集まりでもゲートボールからボッチャへの移行が見られるようになりました。そして共生社会のツールとして地域交流が広がっています。ボッチャを通して心の距離が近くなっていることを感じ、嬉しく思いました。





大地の家

(生活介護)

芋ほりに行ってきました

秋晴れの11月上旬、メンバー11名とともに、刈谷市のさつま芋畑へ芋ほりに出かけました。

今年度大地の家ではアシスタント体制の調整が厳しい状況が続き、なかなか外出活動が実現できずにいました。

そんな中で迎えた今回が、待ちに待った今年度初の外出です。

人手の確保には休日出勤で対応してくれたアシスタントもいました。

この芋ほりは、昨年もメンバーの生き生きとした表情や、受けた刺激の大ききから、「今年も是非」と切望していたところ、名古屋ワイズメンズクラブより再びご招待をいただきました。

当日は日差しも暖かく、まさに絶好の芋ほり日和でした。

現地に着くと、名古屋ワイズメンズクラブの皆さん、畑を管理されている南山ハーベストの方、そして愛実の会の理事の方が、すでに万全の準備をして待っていてくださいました。

畝(うね)のそばにはブルーシートが敷かれ、さらにはメンバーが掘りやすいよう、あらかじめ土を掘り起こしていただいていたいました。

普段は車いすでの活動が多いですが、畑の端でメンバーを一人ずつシートの上へ移乗し、いよいよ芋ほり開始です。

土の中に埋もれている芋の姿は、普段の生活ではなかなか想像しにくいもの。掘り起こしていただいたおかげで、つるを引っ張ると芋が抜ける仕組みになっていました。

「芋を食べるのは大好き」なのに、土に触れることに戸惑い、なかなか手が出ないメンバーもいました。

一方、状況を把握して自ら手を伸ばすメンバー、一歩踏み出すのに時間がかかるメンバーなど、その様子は一人ひとり様々でした。

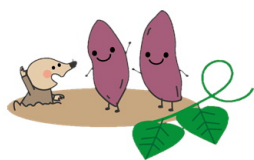
それでも、土の上へ降りて直接、土やさつまいもに触れるという非日常的な体験は、皆にとって貴重な刺激となりました。

緊張した様子もありましたが、表情や仕草の端々から、心から楽しんでいることが垣間見えました。

今回の芋ほり体験は、多くの方のご協力により実現した、私たちにとって大きな喜びと充実感をもたらす活動となりました。

普段の外出活動とは異なる自然の中での刺激は、メンバーにとっても貴重な経験になったことと思います。

「また来年も伺えたら嬉しいな」と思いました。





紙風船

(生活介護)



2025年度外出レク

今年度、紙風船は外出のレクで、3つの場所に行きました。

初めに訪れたのは、7月8日イオンモールNagoya Noritake Garden。大迫力の映像と音響で楽しむプラネタリウム鑑賞をしました。まるで宇宙空間に引き込まれるような感覚で、あっという間の40分でした。

2か所目は、9月30日フライト・オブ・ドリームズへ。ここは、ボーイング787初号機が展示してある屋内施設。本物の旅客機を間近に見ながら、それぞれ選んだおいしい食事を堪能しました。

3か所目は、10月17日風情ある犬山城下町散策に行きました。美味しそうなグルメが軒を連ねる街並みを歩きながら、食べ歩きをしました。「何を食べようか」と迷いながら、それぞれ好きな物を食べ楽しみました。



旅の思い出

公演報告～ボーちゃんの言葉～

10/23中村区にある病院のデイケアにて「ボーちゃん」を公演。「ボーちゃん」は紙風船の代名詞ともいえる作品です。のんびり屋のカバのボーちゃんが、いろいろな仕事に挑戦しては失敗。でも落ち込まず前向きに生きていくという内容です。決めゼリフは「ま、いっか。ぼちぼちいこか。」

先日、そのデイケアの職員様から嬉しいご連絡をいただきました。「ボーちゃん」を観た方の中に「もう一度前を向いて、人生を頑張ってみようという気持ちになった」という感想がありました。失敗したってよくよしない、マイペースでぼちぼち行こうよ、というボーちゃんの姿に感化され、前向きな気持ちになって下さったようです。メンバーが一生懸命演じる姿やボーちゃんの言葉は、人々の心を温めることもできるのだと改めて実感しました。これからも、原点を忘れずに私たち紙風船の気持ちを届け続けていきたいと思ひます。

地域ふれあい公演のお知らせ

12月21日(日) みんなおいでよ！クリスマス劇場 無料
午前11:00～12:00 @東築地学区防災センター(愛実の会隣)
出演:人形劇団紙風船&人形劇団ひつまぶし

右のQRコードより公演チラシが見られます



「ヤドカリ合戦を見ながら」

島 しづ子

みなさま、良きクリスマスと新年をお迎えください。

沖縄で6回目のクリスマスを迎えます。名古屋時代と変わったのは生物との距離かもしれません。昆虫などは苦手ですが、浜辺に行くと、ヤドカリの足跡があり、時にヤドカリたちが自分に合った大きさの貝殻を求めて歩く様子を見ることができます。辺野古の浜で、ヤドカリ同士が新しい宿をめぐって手足を振り上げて闘っているのを見ました。負けたヤドカリはすくすく他の貝を探しに歩き回っていましたが見つかりません。穴の開いた貝にたどり着き、観察していましたが、穴があるのはだめだと、思ったのか、その破れ貝を置いて、また探しに行きました。歩き回ってもふさわしい宿になる貝が無く、仕方なくヤドカリは穴の開いた貝に戻って来て、その貝を住处とし、そこに入り込みました。浜辺ではこうした「ヤドカリ合戦」が時々見られます。

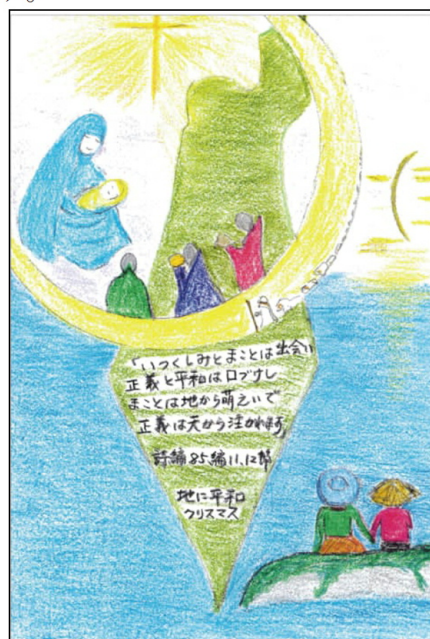
貝の少ない浜辺ではマヨネーズの蓋を住处にしたり、割れた瓶の中に入っているヤドカリも見かけます。浜辺には小さい貝がいっぱい流れ着いています。以前は平気で浜を歩き、貝を踏みつぶしてしまっていました。この頃は多少気を付けています。

沖縄は観光県ですから、観光案内や別荘販売の案内をよく目にします。ある別荘の広告のパンフレットに「海が目の前の一等地。〇〇〇〇 時間と空間」と題する写真が載っていました。海も空もきれいな写真です。海の方こうに山が見えます。その山は安和鉾山という山で、赤茶けた肌を見せています。そこから辺野古新基地建設に使われる石材や土砂が大量に運び出されているので、山そのものが無くなった場所もあり、低くなり、赤茶けた山肌を見せている工事現場です。

私はそういう景色を見るような別荘はごめん被りますが、その写真を撮った人、表紙に使った人は気にならないようです。同じ景色を見てもその場所がどういう場所であるかを知らなければ、見えていても見えない景色なんだろうなあと思います。見えていても見えない、聞いても聞こえない。大浦湾でも巨大な工事が目の前で展開している場所にホテルがあり営業しています。お客様は保養に来て、目の前の景色にがっかりしないのかしらと思います。

沖縄に住んで、各地の戦争や戦争準備を見ていると、世界も日本も人間を粗末に扱っていると思わされます。足元を見つめ、小さな声を聞くことが求められているなあと感じます。ヤドカリのように周囲をよく観察して、新しい貝殻を探したいです。

戦後80年と言われていますが、沖縄では戦争の傷跡が残っています。ガザやウクライナなどの戦争中止はもちろんですが、戦禍の傷跡が続くことを思うたびに、戦争を起こしてはいけないと思わされます。沖縄の心は「戦争につながるものをすべて拒否する」です。一日も早く地上に真の平和が訪れますように。貼付のカードは「沖縄からパレスチナを見ている地に平和」をテーマに描きました。みなさま お元気で



NPO法人愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)

2025年7月11日～2025年11月10日

★ 寄付金

有賀 進	三矢 かな江	杉本 誠	相馬 悦子
伊藤 幸雄	荒竹 ひろみ	安藤 香代	楠本 啓子
野崎 典子	佐藤 千萬子	矢澤 綾子	戸田 真二
下村 徹嗣	阿部 健二	倉田 節子	桂 正枝
真木 芳子	伊藤 久子	柴田 京子	桑山 博信
義井 裕子	栗原 健	丸山 恵津子	瀬口 昭代
浅野 幸治	岡山 慶子	伊藤 あつ子	河内 常勇
武井 陽一	鶴崎 祥子	佐藤 真理子	
東海市肢体不自由児者父母の会			

★ 夢づくり

後藤 宣彦	小川 弘樹	牧野 みゆき	川口 いづみ
田中 孝子	荒竹 ひろみ	荒川 敦子	矢澤 綾子
牧野 雅樹	石崎 亮史朗		
(株)IR			

★ ボランティア

名古屋ワイズメンズクラブの皆さん
南山ハーベストの皆さん
地域有志の皆さん(ボッチャ交流)



2025年度の寄附金目標額150万円

＊アシスタント支援体制の強化

＊紙風船夢づくり(人形劇制作費等)

愛実の会では、メンバーとの関わりを大切にし、誰もが安心して地域生活を送れるよう、充実したサポート体制の実現を目指しています。目標額に対して現在の寄付金合計は50万円です。皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

当法人「NPO法人愛実の会」は、名古屋市が認定した「認定NPO法人」です。認定NPO法人へのご寄付は、公益性の高い事業への支援として、税制面で優遇措置(寄付金控除)の対象となります。ご寄付をいただいた翌年の確定申告時に、当法人が発行する寄付金受領証明書を添付することにより所得から控除を受けることができます。寄付金受領証明書は確定申告まで大切に保管をしていただけるようお願い申し上げます。

職員紹介

※木村 友弓(大地の家)

7月より大地の家で働いています木村です。先輩アシスタントの方々にいろいろ教えて頂きながらメンバーの皆さんが笑顔で楽しく通っていただける様に努めていきます。よろしくお願い致します。

※若松 真由(給食)

8月より給食で働いている若松です。調理に関して教えてもらう事も多く、勉強にもなり働きやすくして頂いて感謝しています。美味しい給食を作っていけるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

※上田 晃好(ドライバー)

7月より愛実の会で送迎のドライバーをさせて頂いております上田です。運転歴はタクシードライバーを始め、超大型クレーン車も含めて35年間、ドライバー一筋で働いて参りました。これからも、安全運転に努めて参りますのでよろしくお願い致します。

※山下 大洋(居宅介護登録ヘルパー)

8月からコパンで働いている山下です。特養での経験しかない為、初めてのことも多いですが相方職員に聞きつつ楽しく仕事を覚えています。笑顔を大切にメンバーに安心して過ごして頂けるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

ボランティアさん募集しています
愛実のメンバーと一緒に楽しみませんか？
見学の方も大歓迎です
ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください



担当：戸田(連絡先：052-693-5897)

【所在地・連絡先】

特定非営利活動(NPO)法人 愛実の会

□ 障がい者デイセンター愛実(生活介護)

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL: 052-693-5897 FAX: 052-691-7889

□ 居宅介護事業所あみ(ホームヘルプ)

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL: 052-693-7645 FAX: 052-746-2639

E-mail info@aminokai.com

ホームページ http://www.aminokai.com

【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490

□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1口1,000円 何口でも結構です

◆ 寄付金(賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用)

◆ 紙風船夢づくり(人形劇制作費、公演活動に関する費用)